

様式（細則 5-2）

令和 2 年 10 月 30 日

浜田市議会議長 様

議員名 飛野弘二



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

記

- 1.期間 令和 2 年 10 月 22 日（木） 10 時～12 時
- 2.研修内容
再生可能エネルギーの現状と関連法制度・施策について
- 3.研修先
浜田市議会 第四委員会室
- 4.調査経費 5,000 円
(経費内訳 講師謝金 5,000 円)
- 5.調査研究活動の概要

▲情報提供

- ①世界、日本島根の再生可能エネルギーの普及状況及び市場動向について
- ②再生可能エネルギーに関する政策について
 - ・法率及び制令ガイドライン等
 - ・都道府県の委任条例
 - ・自治体の独自条例
- ③各地の具体事例について

▲論点整理

- ・今後、日本国内（島根県内）でも、再生可能エネルギーは増える。
- ・浜田市の開発案件は続くのは、風力資源が豊富であるから。
- ・再エネ歓迎地域と反対地域で二極化。傾向として、資源が多い地域の反対が多い。自治体財政にも大きな影響あり。
- ・今後、様々なものが「電化される」。活用資源の移行。地域に自分たちが主権をもつ再エネが必要。
- ・自然環境や社会資本を傷つける開発は避けるべき。



- ・地域インフラの存続や地産地消を生み出すことを目指して、再エネ普及・推進すべき。
- ・地域からの流出（エネルギー購入で多額のロス）を止め、地内流通を高めることで、地域を豊かに。
- ・地域協議会などをつくり、地域ぐるみで再エネ開発に向き合うことが必要。パートナーとなれる「良き事業者」とのお付き合いをする。※再エネだけでなく、地域の未来と豊かさを考える組織体で本テーマも扱う（分科会の設置）というイメージ。

（所感）

私の住んでいる三隅町には火力発電所がある。現在 2 期工事として 100 万 kW 増設工事が順調に進捗している。2022 年運転を目指している。浜田市にとっても三隅町にとっても重要な施設だ。無事故で予定通りの竣工を祈るばかりです。この度、再エネの重要性とメリット・デメリットの研修を受けた。昨今、再エネについては、以前より国も電力会社も普及・推進に消極的なメディアの報道が目立つ。電力の買い取り単価もどんどん下がっている。理由は今後とも普及が続けば電気の質が下がるとの言い分の様を受け止めている。私個人的には現代のエレクトロニクス技術を駆使すれば電気の質は保証できると考える者です。そういう観点から今後とも尚一層の再エネ普及を推進すべきと確信した。

以上